

R6年度 特定非営利活動法人わくわくクラブ 虐待防止委員会ならび身体拘束適正化委員会

日時：令和6年10月23日（水） 10時00分～11時10分

出席者：虐待防止委員長 藤田和子（理事長）、虐待防止マネージャー 捧泰輔（職員）

保護者代表 唐沢友美、第三者委員 田澤弘一、同委員 阿部紀子

内容：①令和6年度虐待防止委員会ならび身体拘束適正化委員会の体制図確認

②「厚生労働省令和5年度障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修」動画視聴

③「身体拘束適正化の指針」の確認

④令和6年度の虐待防止研修等のスケジュール確認

参加者の主なコメント

- ・(虐待の「芽」がないかどうか)管理者が目を光らせておかないといけない。細かい配慮が必要な仕事。わくわくクラブならば共通理解をはかって前に進んでいけると思うが、「大丈夫」と過信しないで、組織的に計画を立てていくことが必要だと思う。
- ・わくわくクラブならば、虐待が起きる心配はないと思うが、(動画の講師が言っていた通り)何が起きるか分からない。職員相互の連絡と、保護者との連絡を密にすることが大事だろう。
- ・自分自身、我が子に「毒親」と言われたことがある。親としては「良かれ」と思っていることでも、「子どもにとってはどうだったのか?」と考えることがあった。
- ・職員としてそのつもりが無かったとしても、利用者である本人が「傷ついた」ということがあるかもしれない。そこは自問自答しながらやっていかねばと思う。
- ・子ども同士のいざこざから、職員が止めなければならぬ場面もある。そうした時に身体拘束を行わなくてもいいように、具体的な支援方法を考えていかなければいけない。
- ・動画を視聴し、「組織的に」ということがよく出てきていた。上に立つ者としての対応が大事だと思う。
- ・昔、我が子が幼児だった時に園で(職員に)虐待を受けた。多動で、周りの子に影響がでることから「今日はイスに縛りました。それを許可してほしい」とのことだった。その場では抗議できなかったが、後で市役所に訴えたところ、その日のうちに園長が謝罪に来た。結局その園からは転園した。「いやだ」と言える子はいいが、小さい子や(障害により)喋れない子は言えないから大変だと思う。
- ・虐待防止委員会の取組みを、できれば法人総会時の活動報告の中で報告してほしい。